



1.伊達市の桃はランナーからも好評/2.ハイタッチでゴール/3.親子（お父さん）の部で初出場初優勝を果たした渡邊大介さん・健（たける）くん。「記録更新はならなかったけれど、子どもと一緒に走れて楽しかった」と感想を語った/4.親子（お母さん）の部で見事2連覇を遂げた松下貴子さん・ゆめのさん。「親子の部に参加できるのは今年が最後なので、優勝はとてうれしい」と喜びを語った/5.号砲とともにランナーが駆けだす

「夏の伊達路を駆ける」

8月27日、第57回伊達ももの里マラソン大会が保原中央交流館をスタート・ゴールに行われ、市民ランナーが熱いレースを繰り広げました。今大会は、北は北海道から南は沖縄県まで6,550人がエントリー。強い日差しが照り付ける厳しい条件でのレースでしたが、沿道からの声援やボランティアのサポートに支えられ、多くのランナーが完走しました。メインとなる10*の部は3,395人がエントリーし、男子は大橋真弥さん（宮城県）が31分3秒、女子は根元香苗さん（埼玉県）が39分1秒で総合優勝を果たしました。

市長日誌「CCRC（シーシアーall シー）って何？」



今、伊達市は「高子北住宅団地」の開発を計画していますが、この中に「伊達市版CCRC」を作れるべく取り組んでいます。「CCRCって何？」と思う人は多いと思いますが、私も最初はちんぷんかんぷんでした。

CCRCとは、アメリカで生まれた高齢者のコミュニティ住宅のことで、退職後健康なうちに同居して仕事や社会活動を通じ地域の担い手として活動しながら老後を過ごし、必要が生じれば介護・医療サービスが受けられる「終の棲家」として広く普及しているものです。

それを高齢社会を迎えた日本でも導入しようとするものが「日本版CCRC」で、東京一極集中の現実から増え続ける東京の高齢者（アクティブシニア）が元気なうちに地方に移り住んでもらう、ボランティア活動などを通して地域コミュニティに溶け込み、加齢と共に今度は自分がケアを受けつつ地域社会の一員として老後を過ごす、というものです。これは、国の進める「地方創生・生涯活躍のまち」構想に基づくもので、

全国いくつかの都市が取り組んでおり、当市も「伊達市版CCRC」を目指しているところですが、

そのため、先進的に取り組んでいる民間を参考にすべく、以前には「シェア金沢」を、今回は担当職員と共に「ゆいまる那須」を視察してきました。どちらも素晴らしい取り組みで大変参考になりましたが、両方とも創業者の強い想いから出発している事に感銘を受けました。

前者は障がい者や高齢者、ボランティアの若者などが一緒にコミュニティを作り、

「ノーマライゼーション」が実現されているのです。後者はほとんどの人が都会での勤めを退職した後に入居した方々で、一部の人がケアを利用しているものの、他は元気な高齢者ばかりで散歩や買い物に出かけたり、施設の食堂のために蕎麦を打ったりしているとのことでした。

さて、「伊達市版CCRC」はどの様なものにすべきか、担当職員と共に鋭意取り組んでいきたいと思っております。